

- 理事長挨拶 ..... 1面
- 優秀論文賞を受賞して、女性医師の立場から ..... 2～3面
- 第5回理事会ニュース、第1回臨時理事会ニュース、新旧引継ぎ理事会ニュース、みんなでどうIF ..... 4～5面
- 第48回日本心臓血管外科学会学術総会、第71回学術集会情報、ネクタイ販売、編集後記 ..... 6面

# 理事長挨拶

新年あけましておめでとうございます。

二期目の理事長を拝命し、今後の本会の展望をお話しさせていただきます。

日本胸部外科学会理事長 大北 裕



まず最初に、第70回の学術集会が松居喜郎会長のもと、2017年9月26日から29日まで札幌市で開催され、無事、盛会裏に終了したことを報告申し上げます。随所に会長の工夫が見て取れ、特に70周年記念企画が好評でした。また、多くの同時通訳の方々を随所に配置して頂き、外国からのお客様と深い交流をいたしました。松居会長はじめ、北海道大学の皆様は元より、会員諸兄に心から感謝いたします。現在、松居会長が収集された資料を主として、会誌編集委員会では日本医科大学の新田隆教授を委員長として、日本胸部外科学会70周年記念誌を編集途中で、本年の学術集会時に会員諸氏にお届けする予定です。毎年3,000名余の会員が集結する学術集会は本会運営の最重要事項と認識しています。現在、数年代の会長を中心にして学術集会委員会では会長制の再検討、プログラム編成、運営会社の選定方法、資金の獲得、会場の設定などを議論しています。

昨年度は5回の理事会、1回の臨時理事会を開催し、評議員会、学術総会などを通じて必要な定款施行細則変更を行いました。まず、三領域の理事数の均衡を図るために次期副会長を理事とすることを決定しました。また、名誉会員も特別会員と同様に選出条件を“年齢が満65歳以上”としました。

本年度の本会活動の年次目標として、1. 胸部外科学に関する学術研究事業、2. 学会誌及び論文図書等による胸部外科学に関する広報事

業、3. 胸部外科学に関する調査研究及び教育事業、4. 胸部外科学領域の専門医等の認定及び教育、5. 内外の関係学術との連携提携及び調整事業、などを掲げました。

本年度は恒例の2年に一度の評議員選挙を行います。今回からweb選挙方式を取り入れ、290名の選挙評議員、10名の推薦評議員を選出いたします。正会員の方々、特に女性評議員の立候補を期待しています。同時に女性会員の積極的な参画を期待しています。

総合将来計画委員会では本会の将来のあり方について議論をしてきましたが、会長制について、正会員の意義、本会法人形態の検討などが新しい議題です。それ以外にも、本会の国際化、GTCS誌の充実、学術集会のあり方、地方会との連携なども継続議論します。

平成29年度(7月31日まで)の本会の財政は収入¥321,810,066、支出¥307,404,221で、正味財産変動は無く、総て健全でありました。また、報告書を事業別とし、各活動の収支を明らかにしました。

教育事業では本年も、呼吸器外科・心臓血管外科サマースクール、PGC、医療安全講習会を開催予定です。新たな取り組みとして、研究助成(JATS Research Project Award)を開始いたしました。また、従来から存在していたビデオ・ライブラリーを発展的に解消して、学術集会で高い評価を得たビデオ演題をHP上で閲覧可能にいたします。

懸案の機関誌GTCSについてです

が、会員諸氏のご協力のお蔭で2016年度の仮IFは1.035となり、2018年上半期にはClarivate Analytics社の審査が決定される予定です。しかしながら、従来からのIF授与方針が変更される可能性もあり、予断は許されません。引き続き、皆様のご協力をお願いいたします。また、臨時増刊として“Controversies in Thoracic Aortic Aneurysm Surgery”が発刊予定で、引き続き、同様の増刊号を策定中です。

新専門医制度制定における日本外科学会専門医制度は2018年4月に発足予定ですが、本会としては、日本外科学会の一階部分と我々サブスペシャルティ部分のより進んだ連携を提唱するとともに、外科専門医取得に必要な症例数の不均衡も解消したいと考えています。

Annual reportについて2015年版の刊行が心臓部門のNCDからのコンバーター不具合により、大幅に遅れています。今後は、annual reportの改編も検討しています。呼吸器外科領域ではNCDデータと連結が完成しています。食道領域では、NCDデータからの連結を検討予定です。

国際委員会の取り組みとして、次世代会員の海外への短期留学“JATS travelling fellowship”、“JATS-AATS Graham fellowship”を昨年から開始いたしました。本年も4-5名の短期留学を募集いたします。詳細はHPの募集要項を供覧のうえ、奮って御応募ください。一方、また、Asian traveling fellowshipとしてアジア近隣諸国からの本会学術集会への参加も支援いたします。

昨年、発足した“地方会のあり方委員会”では、本会と地方会の連携をより緊密にする方策として会費収納の一本化を提案いたしました。しかしながら、その後のアンケートでは多数の反対意見を頂戴し、また、幾つかの問題が明らかになりました。それは、一般会員の半数近くが地方会会員ではないこと、各地方会ごとに構造的な相違が存在することです。今後は、拙速を避け、会員諸氏のご理解を得るため丁寧な説明を行いたいと思います。北海道、東北、関東甲信越、関西、九州の地方会では若い会員の格好の活躍の場となっています。昨年度から、各地方会の発表について、心臓血管外科、呼吸器外科専門医制度申請にクレジットを付けていただくことになりましたが、本年はこれを更新条件にまで拡大することを、機構・合同委員会にお願いしようと思っています。

2018年10月3日から第71回学術集会が品川で東京医科歯科大学 荒井裕国会長のもとで開催されます。荒井先生らしい命名の“Scientific creativity”がテーマで、どんな、新機軸、工夫が見られるか、今から期待を大きく抱かせるタイトルかと思っています。

昨年、改正された個人情報保護法と学術集会演題応募、論文出版、専門医取得の際の症例登録などとの関係には未だ、明確なガイドラインは確立されていませんが、会員諸兄には本件に、ご注目して頂きたく思っています。

これにて新年の挨拶とさせていただきます。本年も会員諸兄のご奮闘を願ってやみません。